

参加申込書

FAX送信先:

0133-22-3013

フリガナ 名 前			年 齢	☐ 男 ☐ 女
所 属				
業 種	当てはまるものにチェックを入れてください ☐ 農業生産者 ☐ 乳牛 ☐ 肉牛 ☐ 羊 ☐ 豚 ☐ 畑作 ☐ 水田 ☐ 指導・研究機関 ☐ 流通 ☐ 加工 ☐ 外食 ☐ その他()			
連 絡 先 (左:勤務先) (右:ご自宅)	〒 住所 TEL FAX	〒 住所 TEL FAX		
携 帯 電 話		E-mail		
参 加 費	☐ 一般 ￥55,000/1名様 ☐ 学生 ￥35,000/1名様 ＊全棟禁煙です。喫煙は指定場所をお願いします。 ＊料金に含まれるもの: 宿泊費、温泉入浴費、夕食2回、朝食2回、昼食1回など ＊日帰り参加も可能です。料金が異なりますので詳細はお問合せください。 ＊コテージ1棟4～5人、2連泊。部屋割りは事務局にお任せください。 ＊途中参加・退席の場合も同料金を請求させていただきます。			

▼部屋割り・グループ分けの際に参考とさせていただくため、できる限り詳しくご記入をお願いいたします。

1、あなたの牧場について簡単に教えてください。(搾乳頭数、面積など)

2、あなたが今スクールで何を学びたいのか教えてください。

3、その他、自己アピール(なんでも自由にお書きください)

わたしたちがサポートします！／

創地農業 21 事務局

<https://www.souchi21.jp>

農業を主軸に食と環境への視点を含めてより良い未来への準備をするために1996年スタートさせた指導、研究、教育組織です。
 変革の意識を持った意欲的な農業者を対象に、様々な取り組みを展開しています。

代表:小谷 栄二
ファームエイジ代表副代表:新村 浩隆
十勝しんむら牧場代表

ホームページ



facebook ページ

お問合せ・お申込み

■事務局 担当 下村まで

▶携帯 090-2877-8817

▶E-mail: info@souchi21.jp

 TEL: 0133-22-3060 / FAX: 0133-22-3013
 北海道石狩郡当別町字金沢166-8(ファームエイジ株内)

第46回

グラスファーマーミングスクール

 少ない労働時間で、より豊かな暮らしを
 ～放牧酪農で叶えるワークライフバランス～

酪農の現場は、2020年以降コロナ、ウクライナ侵攻、円安も大きな影響を及ぼし苦境に立たされています。人口減や農村のあり方など課題は様々です。今スクールにて訪問する2つの牧場は、外的要因から影響を受けず、放牧酪農で、ゆとりあるライフスタイルを実現されています。放牧酪農で持続可能な牧場経営を目指すために私たちは何をすべきかをともに考え実践していきます。

日程: 2024年9月3日(火)、4日(水)、5日(木)

訪問牧場

坂根牧場(十勝大樹町)、ゼンキュウファーム(十勝広尾町)

宿 泊

グランピングリゾート フェーリエンドルフ(中札内村南常盤東4線)

定 員

50名 ＊申込者が多数の場合、ご予約をお受けできない場合がございます。ご了承ください。

募集期間

2024年6月14日(金)～8月2日(金)

参加費

一般(1名様あたり): 55,000円(コテージ2泊宿泊朝夕食事付き)

学生(1名様あたり): 35,000円(コテージ2泊宿泊朝夕食事付き)

＊料金に含まれるもの: 宿泊費、温泉入浴費、夕食2回、朝食2回、昼食1回
 ＊日帰り参加も可能です。料金が異なりますので詳細はお問合せください。
 ＊コテージ1棟4～5人、2連泊。部屋割りは事務局にお任せください。
 ＊途中参加・退席の場合も同料金を請求させていただきます。

主 催 : 創地農業21

後 援 : ニュージーランド大使館、北海道、酪農学園大学

協 賛 : (株)アレフ、(株)きのとや、住商アグリビジネス(株)、(株)バイオバランス、(一社)北海道農業法人協会、(財)食料農商交流協会

※パタゴニア本社(環境保全プログラムにて助成予定)

集 合 場 所

グランピングリゾート フェーリエンドルフ

〒089-1368 中札内村南常盤東4線 TEL: 0155-68-3301

- 東京(羽田)⇄とかち帯広空港(1時間30分)
- 季節運航 | 中部⇄とかち帯広空港(2時間)
- とかち帯広空港より車で15分
- JR 帯広駅より車で40分
- 帯広広尾自動車道・中札内ICより車で5分

受付開始
いたします♪

9.3 (火)

プログラム

※プログラムは変更になる場合もございます。

9.4 (水)

9.5 (木)

12:00-12:40	受付
12:50-13:00	開会宣言 (新村 浩隆)
13:00-13:30	草地農業のこれまでとこれから (小谷 栄二)
13:40-14:40	グラスフェッドで放牧畜産をアップデート (後藤 貴文)
14:50-15:30	坂根牧場 (坂根 遼太)
15:40-16:20	酪農・物質循環・微生物と生態系 (内田 義崇)
16:30-17:10	ゼンキュウファーム (久保 昌弘)
17:20-18:00	放牧草地管理の基礎と気候変動対応 (佐藤 尚親)
18:00-18:30	チェックイン
18:30-20:00	夕食:ビュッフェスタイル/自己紹介
20:00-21:30	休憩・入浴
21:30-23:30	夜なべ談義

07:00-08:30	朝食
09:00-09:35	移動
09:35-11:40	坂根牧場 フィールドワーク (坂根 遼太)
12:00-13:00	昼食
13:00-13:35	移動
13:40-15:40	ゼンキュウファーム フィールドワーク (久保 昌弘)
15:40-16:40	移動
17:00-19:00	夕食:BBQ/ フィールド感想・個人目標発表
19:00-20:30	休憩・入浴
21:00-23:30	夜なべ談義

07:00-08:30	朝食
08:30-09:00	標ごとにゴミ片付け/チェックアウト
09:00-10:50	ディスカッション・まとめ 『私たちの目指す(応援する)酪農・畜産』
11:00-12:00	発表 講師からのコメント
12:00-12:10	閉会挨拶



坂根 遼太さん(坂根牧場 代表)

40歳 搾乳頭数 85-90頭

坂根牧場4代目。
先代から専業酪農経営に切りかえます。
かつては町1位の収量を目指したこともある牧場でしたが、ヨーネ病など疾病問題を解決するために放牧に転換します。遼太さんは、子供の頃は忙しすぎる両親の姿を見て酪農嫌いに。農業研修先のアメリカで奥様と出会い、放牧酪農の価値を知り、6次化に興味を持ちます。カッコいい酪農を目指し23歳で就農。チーズ、牛乳、肉の加工は奥様が担当。牧場を見渡せる宿泊施設を新設。牛と人が幸せになるアニマルウェルフェア畜産認証牧場です。

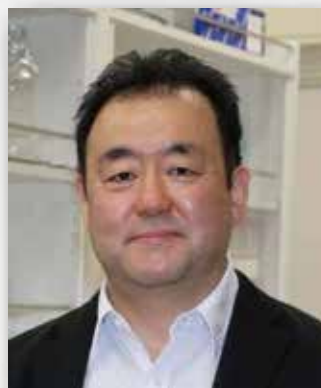


久保 昌弘さん(ゼンキュウファーム 代表)

39歳 搾乳頭数 35頭

ゼンキュウファーム2代目。
ご両親が放牧で新規就農。チーズ加工の先駆け牧場です。昌弘さんは、「朝青龍を押し出したら1000万円」ABEMA TVに出演経験のある、帯広レスリングクラブ所属の酪農家です。放牧で労働時間を短縮することで、格闘家と酪農家を両立する昌弘さん、「広尾町にいてもライフスタイルが充実しています！」と語ります。季節繁殖や、帯広畜産大学と連携し、白血病調査を実施など様々な取り組みをしています。少頭数でもしっかりと利益を得る、牛、人ともに強力な牧場です。

講師 / 講義内容



後藤 貴文

北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター
担当:耕地図ステーション 生物生産研究農場長及び幹内研究牧場長
(教育研究部:耕地図研究領域
大学院:環境科学院・生物圏科学専攻 耕地図科学コース
/農学部・生物資源科学科兼任担当)
※九州大学客員教授
※日本学術会議 第25-26期 日本学術会議連携会員

講義 グラスフェッドで放牧畜産をアップデート

なぜグラスフェッドなのでしょう？
脂肪のない柔らかい赤味肉「Q Beef」は、後藤先生を中心として九州大学農学部附属農場で国産の草資源を活用し、牛本来の生態に合わせて育成・肥育されたブランド牛肉です。
グラスフェッドで良質な肉を安定的に生産するための研究やブランド化に至った経緯は必聴です！
草由来で良質なタンパク質を得る放牧畜産の技術は、農産物を輸入に依存している日本の食料安全保障の課題解決にもつながります。さらに、IoTや衛星を活用した最新の放牧技術で、未来の見える放牧畜産ビジネスを成功に導くヒントがいっぱいです！！

講師 / 講義内容



佐藤 尚親

雪印種苗(株)
トータルサポート室

講義

放牧草地管理の基礎と気候変動対応

放牧を成功させるために必要なことは、放牧草地の現状把握をし、目指す放牧草地のビジョンを明らかにすることです。
本スクールでは、草量、利用率、面積あたりの頭数、それに伴う経営、草種、補助飼料とその影響や効果など放牧草地管理の基礎技術を踏まえ、近年の気候変動にどのような対策が必要か学びます。



内田 義崇

北海道大学大学院農学研究院
環境生命地球科学研究室 准教授

講義

酪農・物質循環・微生物と生態系

草地において基礎的な考え方は、自然生態系のバランスを崩さないで食料を生産することです。しかしそれってどういうことなのでしょう？
例えば、土壌中に存在するさまざまな微生物は、土壌の生物性に大きく影響を与えており、農場や環境に重要な役割を果たしています。持続的な農業や環境保護の観点から、土壌微生物の多様性を理解し、適切に管理することが求められています。しかしそう言うのは簡単ですが、それを実践するとはどういうことなのでしょう？
そのために、今、私たちは何を取り組むべきかを一緒に考えましょう。